

国際日本学研究科

「日本社会・産業システム研究領域」の紹介



日本社会・産業システム研究領域

近年、ICT(情報通信技術)やAI(人工知能)を筆頭とするデジタルテクノロジーの革新と進歩によって、人々の暮らしは大きく変わっています。そしてまた、企業活動はますます高度化・複雑化し、社会の仕組みも多様化の様相を呈しています。この研究領域では、日本における消費行動や企業活動、産業構造、そしてその総体としての社会システムのダイナミズム、すなわちその変化や動態を研究します。より具体的には組織の在り方と企業文化、日本的経営やものづくり、日本的流通システム、広告、情報産業およびクリエイティブ産業などを対象として、実践的・理論的な諸問題を考察します。

企業・メディア・コンテンツの特質・問題点を探求

- 戦後、日本は産業・企業における独自のシステムを創り上げ、世界に発信
 - ・ トヨタ生産システム、コンビニエンス・システム、宅急便システムなど
- 1990年代のバブル崩壊以降、日本の産業や企業は大きな変革の時代に突入
 - ・ 人口減少など社会構造の変化、国際化の時代への突入
 - ・ ICT、AIの進歩による第4次産業革命の時代
 - これらは日本の社会・産業・企業への甚大な影響



- この研究領域の研究

- (1) 情報通信産業とデジタル文化流通における日本の独自性にアプローチ

- 政策、社会、技術、市場の観点から総合的に情報通信産業とデジタル文化流通を研究。かつ日本の独自性や世界における役割など広い視点から課題・対応策を探求

- (2) デジタル情報環境下における広告コミュニケーションと消費者行動の変容

- 広告コミュニケーションが消費者の認知・態度・購買行動に及ぼす影響の分析
 - デジタル化の進展に伴う情報環境の変化と消費者行動の解明

担当教員の研究分野と指導可能な研究領域



氏名 田中 絵麻 Ema TANAKA

研究分野：情報通信政策論、クリエイティブ産業
を含むデジタル文化流通領域の研究



指導可能な研究領域

日本や海外の情報通信政策研究と国際比較分析

日本や海外のデジタル文化流通のリサーチ



研究方法と接続領域



田中 絵麻 Ema TANAKA

- ✓ 方法：政策文書・制度資料・統計・国際比較を読む社会科学的分析手法を採用。政治学・経営学・社会学の知見を参照する学際的アプローチ。
- ✓ 接続領域：情報通信政策・通信ネットワーク政策を核に、災害時も含めたインフラ整備、デジタル文化流通、プラットフォーム、ICTリテラシー、参加型市民社会、クリエイティブ産業等の現代的領域の課題を踏まえた分析と提言。

担当教員の研究分野と指導可能な研究領域



氏名 小野 雅琴 Makoto ONO



研究分野：広告等のマーケティング・コミュニケーション
情報が消費者の製品評価に与える影響をテーマに、
理論モデルを構築し実証する研究



指導可能な研究領域

広告メッセージ特性と消費者評価の研究

情報源の信頼性と説得効果の研究

消費者特性と情報処理の研究



研究方法と接続領域



小野 雅琴 Makoto ONO

- ✓ 方法：実験・質問紙調査・二次データ分析等を用い、広告等のマーケティング・コミュニケーション情報が消費者の認知・態度・購買行動に与える影響を検証する実証的手法を採用。消費者行動論・広告論・社会心理学の知見を参照し、理論モデルの構築と実証を行う。
- ✓ 接続領域：広告論・消費者行動論を核に、デジタル・プラットフォームにおける情報接触、インフルエンサーやSNSによる共感形成、ブランド・コミュニケーション、消費者意思決定、さらにはAIによるパーソナライズやエシカル消費等の現代的課題を踏まえた分析と提言。